令和年3年度　学　校　評　価　【計　画　書・報　告　書】

加賀市立三谷小学校　校長　平井　雅子　　印

学校教育ビジョン
1　学校教育目標
　夢や目標に向かって，主体的に学ぶ三谷っ子の育成
2　「子どもも保護者も地域の方も，みんなが大好きな三谷小学校」をめざして
（1）めざす児童像
　①自分の夢や目標をもち，自分で考えて前向きにがんばる子
　②友だちを大切にし，人の気持ちを思いやる子
　③心身ともに元気な子
　④家庭や郷土を大切にする子

（2）めざす学校像
　①学ぶ意欲にあふれ，一人一人の成長が感じられる学校
　②子どもが安心して笑顔で生活できる学校
　③保護者や地域に信頼される学校
（3）めざす教師像
　①子どもの目標達成や夢の実現を支えるために，協働して学び続ける教師
　②児童一人一人の安心と安全を第一に考えて行動する教師
　③保護者や地域と連携して，子どもたちを育てる教師

3　今年度の重点目標
（1）豊かな心と健康な体を育成する教育の推進
（2）主体的・対話的で深い学び」の実現と学力向上
（3）すべての子どもが安心して学べる学校づくり
（4）家庭や地域との連携と郷土を愛する心の育成
（5）協働し，笑顔で教育活動を推進する教職員集団づくり

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	各教科の授業のふり返りに重点を置き、自己の変容や新たな課題の発見につなぐことができるように授業改善を図る。	各授業において、めあてを明確にした授業を展開し適切にまとめたうえで、自己の変容・学びの実感を確認するふり返りをする。	教務主任	授業時間のタイムマネジメントが図られ、ふり返りをする時間は確保されつつあるが、ふり返りの内容を条件に合わせて書くことができるなど充実させる必要がある。	【成果指標】 各教科の授業において自己の変容や学びの実感、学びのつながりを意識したふり返りをすることができる	授業のふり返りの視点を決めて行い、充実したふり返り活動ができた割合が、 A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	5つのポイントを意識した挨拶をし、自分も周りも明るくなるような学校づくりとよりよい人間関係の育成を図る。	児童会を中心に挨拶の5つのポイントを全校に広め、5つのポイントをもとに定期的に学級で振り返りを行う。	生徒指導主事	昨年度の取組から、挨拶の5つのポイント（自分から・手を振って・大きな声・笑顔・目線）が、児童の意識にある。今年度は進んで実践できる児童を増やし、自分も周りも明るくなるような学校づくりとよりよい人間関係の育成に繋げたい。	【成果指標】 5つのポイントを意識して挨拶をすることができる。	5つのポイントを意識して挨拶をすることができた児童の割合が、 A　80%以上　B　70%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。			
	生徒指導の3機能を生かした授業作りに取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	学校生活アンケートやQ-Uアンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図り、児童が周りとのつながりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業づくりを実践する。	生徒指導主事	少人数のよさを生かし、学年をこえて仲良く関わることができている。しかし、限られた人間関係の中での関係作りに課題も見られる。相手を理解し、自分の思いを伝えながら、よりよい関係を築けるようになってほしい。	【努力指標】 児童が周りとのつながりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう「共感的人間関係」を意識した授業実践を行う。	児童が周りとのつながりを実感し、よりよい人間関係を築けるよう、「共感的人間関係」を意識した授業実践を行うことのできた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。			
③キャリア教育・進路指導	現在の自分より少しでも高められることを意識した目標を持ち、その達成に向けて前向きに努力し、やり遂げた満足感を味わわせることで自己肯定感を高め、将来の夢や希望をふくらませる。	各種行事や取組等において、各学年や個々人の実態に応じて、“今よりも少し上”を意識した目標を持たせ、目標が達成できるようにする。	キャリア担当	やるべきことを真面目にこなすが、現状に満足し、さらなる努力をして自分を伸ばそう・高めようとする意識が弱い。児童や学年の実態に応じて、“今よりも少し上”を目指して努力できる意識づけの必要がある。	【努力目標】各種行事や取組等において、児童が“今よりも少し上”を意識した目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	各種行事や取組等において、児童が目標を立てて努力し、「記録が伸びた・成長した・目標達成に向けてがんばれた」と自己評価で上位回答した児童の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。			
④保健管理	児童の発達段階に応じて、柔軟性の向上を中心に、バランスの良い体力向上を目指す。	器械運動領域だけでなく、準備体操やウォーミングアップ等で柔軟性を高める動きを取り入れていく。	体育担当	全体的にバランスよく体力の向上が図られているが、柔軟性において、全体的に弱い傾向がみられる。	【成果指標】 体力テストにおいて、柔軟性の5項目中3項目以上、全40項目中32項目以上で県平均記録を上回る。	体力テストにおいて、柔軟性5項目中かつ全40項目中、県平均記録を突破した項目が、 A　3項目かつ32項目以上　B　2項目かつ28項目以上 C　1項目かつ24項目以上　D　1項目かつ24項目未満	体力テストを実施し、体力分析を行う。			
	心身の健康保持に関心を持たせ、メディアコントロールの意識向上に向けた指導の充実を図る。	健康生活チェックやメディア使用の実態把握を行い、児童委員会活動を中心に、メディア使用と心身の健康の関係について関心を持てるよう働きかける。	養護教諭	就寝時刻が目標時刻より遅い児童が20%おり、その原因がメディアの使いすぎである場合が多い。昨年度、メディア使用時間の目安を提示し、時間を意識する必要性は感じているが、コントロールできている児童は少ない。また、授業でのタブレット端末使用の機会が増え、使用時の姿勢が悪い児童がみられる。。	【成果指標】 健康に留意したメディア使用を心掛けることができる。	「健康に気をつけてメディアを使用することができた」と答えた児童の割合が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	7月・12月に児童対象のアンケートを実施する。			
⑤安全管理	防災への意識を高め、自ら考え具体的な行動につなげることができるようにする。	訓練の際には、教科の内容と関連付けて事前指導を行い、日頃からの備えなどについて家庭と連携して点検し、防災への意識が継続するようにする。	教頭	訓練の際の防災への意識の高まりが継続するような手立てを行う必要がある。	【努力指標】 訓練の際の児童への事前指導や訓練内容を充実させ、家庭との連携をはかることができる。	訓練の際の児童への事前指導や訓練内容を充実させ、家庭との連携をはかることができた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	気になる児童について、児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり見直したりし、共有を図る。	特別支援教育コーディネーター	気になる児童について、毎月の児童理解の会で共通理解し、全職員で対応策を共有している。担任・養護教諭・SCが緊がり情報交換し、よりよい児童支援・家庭支援について連携し対応していく体制をつくる。	【努力指標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり見直したりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討したり見直したりできた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑦組織運営・業務改善	職員間の「協働」「支えあい」を基に、業務内容の精選や効率化を図り、ゆとりある教育活動を推進する。	退勤時刻19時を目指すために、月ごとの業務改善振り返りシートに取り組み、各職員が具体的な改善点を意識して実行する。	教頭	業務の平準化や効率化に努めているが、教材研究等に多くの時間が取られている。	【努力指標】 退勤時刻が19時を超えないように、継続して業務内容の精選や効率化を図る。	退勤時刻が19時を超えないように、業務内容の精選や効率化を図ることができた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	教職員の業務内容振り返りシートを集約する。			
⑧研修	国語科を中心として、主体的に学び、「話す力・聞く力・話し合う力」をバランスよく育成する。	国語科の「話すこと・聞くこと」領域において、学習指導要領に示されている指導事項の確実な習得と活用を図る。	研究主任	昨年度の研究実践により、「話す力・聞く力・話し合う力」については、全体的に高まってきている。今年度は、昨年度の課題の改善を図りながら、さらなる力の向上やその活用が図られるような研究体制を構築していく。	【成果指標】 学習指導要領に示された「話すこと・聞くこと」領域の指導事項に準じた「話す・聞く・話し合う力」アンケートを実施し、定着率をみる。	「話す・聞く・話し合う力」アンケートにおいて上位回答の児童・教職員の割合が、 A　80%以上　B70%以上 C　60%以上　D60%未満	7月・12月に児童・教職員対象のアンケートを実施する。			
⑨保護者，地域との連携	地域の良さを生かした実践や地域行事の児童の参加を通じて、児童の地域への誇りや郷土愛の心情を涵養する。	地域人材や地域教材を活用した授業実践を推進するとともに、地域の行事への参加を児童に呼びかける。	教頭	地域・保護者の方はとても学校に協力的であるが、現状では感染症対策のため、育友会や地域の行事への児童が参加や、地域や地域の人材を活用した授業実践が難しい。	【努力指標】 地域を活用した授業実践や、地域行事への児童の参加を可能な範囲で時期や方法などを工夫して行う。	地域を活用した授業実践や、地域行事への児童の参加を可能な範囲で工夫をして行うことができた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備・環境美化に努め、安全で教育効果を高める教育環境の充実を図る。	日常的に危険に対する高い危機意識をもち、2か月に1回の安全点検を継続して行う。	教頭	定期的に点検し迅速に対応している。継続してマンネリ化を防ぐために新たな視点で点検項目を見直したり、日々の職員間の情報共有を図ったりする必要がある。	【努力指標】 危険に対する危機意識を持って日々の点検に努める。	危険に対する危機意識を持って日々の点検に努めることができた教職員の割合が、 A　100%　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員対象のアンケートを実施する。			
学校関係者評価										